

# 6月号 柳沢プログラム

## 2026年6月号 柳沢プログラム



<https://kodomo-plus.co.jp/>

Copyright © 2026 こどもプラスホールディングス株式会社 All Rights Reserved.  
無断での転載・複製・改変等をご遠慮ください。

### 6月の運動あそび ～開脚跳びにつながるカ～

#### 支持力

- ▶ イヌ
- ▶ アザラシ
- ▶ 新幹線クマ
- ▶ クマのフープ渡り

#### 跳躍力

- ▶ 前後カンガルー
- ▶ グーパー跳び
- ▶ 全身ケンケンパ
- ▶ ポイントジャンプ

#### 支持力+跳躍力

- ▶ カエルの縄越え
- ▶ ウシガエルのフープ渡り
- ▶ カエルの一休み
- ▶ 開脚跳びのポイント着地

### 6月のコラム

#### 運動プログラム応用アレンジ

- ▶ 指示ジャンプ

#### 作業療法士による発達支援コラム

- ▶ お子さんの「注目してほしい行動」と関わり方

#### こどもを守る安全対策だより

- ▶ 家庭でできる食中毒予防

#### アクティビティ紹介

- ▶ 感触あそびを通して広がる体験

#### 職員インタビュー

- ▶ 運動遊びと療育支援こどもプラス三郷第2教室 T先生



# 今月の運動あそび

## 支持力

### イヌ

- ✓ 養われる力：支持力・模倣力
- ✓ 用意する道具：なし

#### あそび方

- ・膝をと手をパーにして床につけ、ハイハイの体勢になる
- ・顔を上げ前を見て、腕の力と足の指で床を蹴る力で進む



#### 声掛けのポイント

手はパーにするよ。こうじゃなくて（手をグーにして）こうじゃなくて（指を丸める）パーだよ！  
手はどんな手にするんだっけ？

#### 気をつけるポイント

手のひらをしっかり開いて床につくことで、より支持力を鍛えることができます。  
顔が下を向いていると前のめりに転ぶことがあるため、顔を上げて前を向くように声をかけましょう。

教室職員様  
専用QRコード

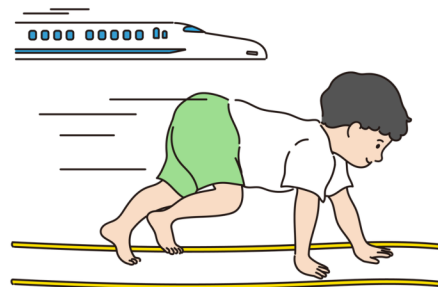


### 新幹線クマ

- ✓ 養われる力：支持力・バランス感覚・身体コントロール力
- ✓ 用意する道具：大縄等

#### あそび方

- ・大縄やテープなどで幅20センチほどの真っすぐな「線路」を2〜3本作る
- ・職員の「よーい、スタート」の合図で、クマの体勢で素早く線路の上を進む
- ・1本目の線路を走り終わったら、2本目、3本目へと続ける



#### 声掛けのポイント

新幹線と電車はどっちが速い？  
新幹線をイメージしてビューンって進んでね！

#### 気をつけるポイント

勢いよく突っ込むと、顔から転倒するおそれがあります。  
安全に取り組めるよう、まずはと支持力（手で体を支える力）をしっかり育ててからチャレンジしましょう。

教室職員様  
専用QRコード



# ～開脚跳びにつながる力～

## 支持力

### アザラシ

- ✓ 養われる力：支持力・模倣力・柔軟性
- ✓ 用意する道具：なし

#### あそび方

- ・うつ伏せになる
- ・上半身を起こし、両腕を立てピンと伸ばす
- ・背中を反らして姿勢をキープする

#### 声掛けのポイント

天井は何色？  
天井には何があるかな？

#### 気をつけるポイント

目線を天井を見るようにすると自然と背中を反らせることができます。  
両腕で身体を支えるイメージをもって行いましょう。

教室職員様  
専用QRコード



### クマのフープ渡り

- ✓ 養われる力：支持力・空間認知力・協応動作・抑制力
- ✓ 用意する道具：フープ

#### あそび方

- ・フープを一列に並べてコースを作る
- ・クマの体勢になりコースに沿ってフープの中に手足を置きながら進む
- ・コースの最後までフープの上を渡りきる

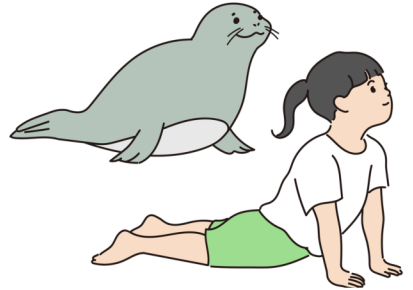
#### 声掛けのポイント

手も足もフープから出ないで進むことができるかな？

#### 気をつけるポイント

手をつく位置、足をつく位置を自分でコントロールしながら進めているか見てあげましょう。  
コースは直線のコースに慣れてきたら、カーブを付けるなどして難易度を上げていきましょう。

教室職員様  
専用QRコード



# 今月の運動あそび

## 跳躍力

### 前後カンガルー

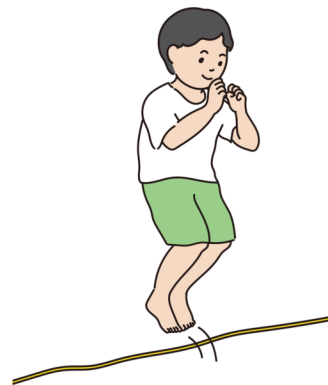
- ✓ 養われる力：跳躍力・バランス感覚・空間認知力
- ✓ 用意する道具：大縄等

#### あそび方

- ・大縄の前に立つ
- ・職員は「前」「後ろ」と合図を出し、こどもはそれに合わせて大縄を前向き、後ろ向きで飛び越える
- ・2回連続で「前」の合図では、その場で真上に跳ぶ

#### 声掛けのポイント

前!、後ろ!、前!、後ろ!・・・



教室職員様  
専用QRコード



#### 気をつけるポイント

一定のリズムで跳べない子は、職員がこどもの正面に立ち、手を繋ぎながら行いましょう。バランスを崩して後ろに転倒することがあるため、人やぶつかる物がないか、周りの環境設定に注意しましょう。連続でジャンプすることは腹筋や背筋を鍛えることになるため、正しい姿勢を作ることもつながります。

### 全身ケンケンパ

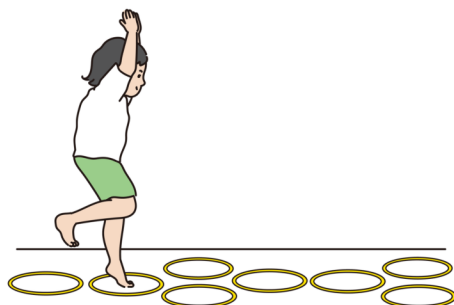
- ✓ 養われる力：跳躍力・バランス力・リズム感・イメージ力
- ✓ 用意する道具：フープ

#### あそび方

- ・フープを「ケン」で一つ「パ」で二つとして規則的に並べる
- ・「ケン」は片足で両手を頭の上に合わせる
- ・「パ」は両足を開いて、「ケン」で合わせた手を離して腕を広げる
- ・フープのコースに合わせて進む

#### 声掛けのポイント

ケン、ケン、パー!



教室職員様  
専用QRコード



#### 気をつけるポイント

両腕を左右に開いたり、頭の上に伸ばす際は肘を伸ばして大きな動きで行うようにしましょう。はじめは「ケンケンパ」の規則的なコースにし、慣れてきたら「ケンパーケンケン」などのランダムなコースにしたり、フープの色を指定して遊んでみましょう。

# ～開脚跳びにつながる力～

## 跳躍力

### グーパー跳び

- ✓ 養われる力：跳躍力・協応動作・記憶力・リズム感
- ✓ 用意する道具：なし

#### あそび方

- ・グーは、両手を胸につけて両足をくっつける
- ・パーは、両手を広げて両足を開く
- ・「グー」「パー」と声をだしながら一定のリズムで繰り返す

#### 声掛けのポイント

声も出しながら身体動かすよ!  
グー!パー!



教室職員様  
専用QRコード



#### 気をつけるポイント

足は片足ずつではなく、ジャンプをしながら両足一緒にグーとパーにしましょう。手と足は同時に動かしましょう。初めのうちはゆっくり大きく行い、慣れてきたらリズムを変えてみましょう。

### ポイントジャンプ

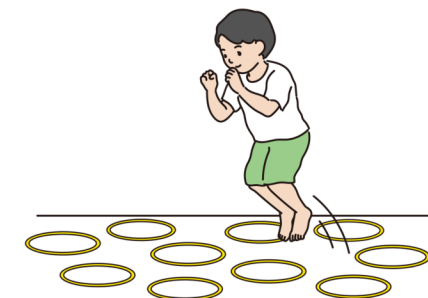
- ✓ 養われる力：跳躍力・思考力・判断力・身体コントロール力
- ✓ 用意する道具：フープ

#### あそび方

- ・色のついたフープを様々な場所に設置する
- ・両足を揃えて腕を振り、フープの中に着地するようにジャンプしながら進む
- ・足の指先と膝のクッションを使い静かにジャンプする

#### 声掛けのポイント

膝に魔法ののりをつけて、くっつけよう!  
(できるようになったら)「トマトの色とバナナの色だけで進んでみよう!」



教室職員様  
専用QRコード



#### 気をつけるポイント

着地をした時にフープを踏んで滑って転倒する場合もあるため、フープの距離は個々の力に合った距離に設定しましょう。足の指先の力がつくことで、転ばないための踏ん張る力を養うことができます。

# 今月の運動あそび

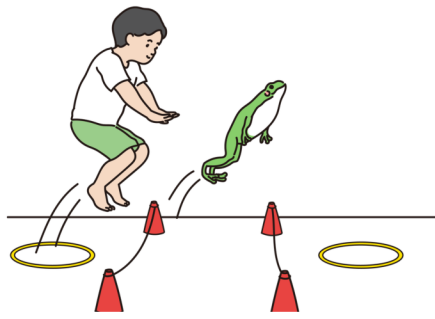
## 支持力＋跳躍力

### カエルの縄越え

- ✓ 養われる力：支持力・跳躍力・空間認知力・イメージ力
- ✓ 用意する道具：三角コーン・ゴム紐

#### あそび方

- ・2本のコーンの間に5cmほどの高さでゴム紐を渡し、跳び越える障害物をつくる
- ・障害物の前に立ち、足を開いてしゃがむ
- ・足の間にパーにした両手をつく
- ・手と足を同時に床から離して障害物を跳び越える
- ・手と足を同時に着地する
- ・手と足でしっかり着地ができ、止まってから次のジャンプに移る



#### 声掛けのポイント

小さいカエルさんで縄を越えてみよう！  
着地したらピタッと止まるよ！  
「びょん！」「ピタッ！」

教室職員様  
専用QRコード



#### 気をつけるポイント

無理をして手を着かせようとすると、顔から床に転んでしまうこともあるので注意しましょう。  
先に手から着地せず、足と手を同時に床につけられるようにしましょう。

### ウシガエルの跳び乗り

- ✓ 養われる力：支持力・跳躍力・高所感覚・空間認知力
- ✓ 用意する道具：マット・跳び箱

#### あそび方

- ・両手を開いてパーにする
- ・肩幅よりも狭い間隔で手を跳び箱の奥につく
- ・両足を閉じた状態から、ジャンプと同時に足を開き跳び箱の上に乗る
- ・足は手の横につき、跳び箱の上でウシガエルの体勢になる



#### 声掛けのポイント

顔は〇〇（先生や物）の方を向くよ！  
手はしっかりパーにしてね！  
「せーの、ジャンプ！」

教室職員様  
専用QRコード



#### 気をつけるポイント

足を確認するために顔がお腹の方を向くとバランスが崩れて転倒する可能性があります。  
顔はしっかりと前を向くよう声をかけましょう。  
転倒を防止するために、職員は斜め前に立ち、こどもの肩付近をすぐに支えられるように準備しておきましょう。  
両足を開いた状態でジャンプしようとする、前に跳ぶ力が弱くなります。  
足を閉じた状態からしっかりと膝を曲げてジャンプをしましょう。  
職員は腰部分を軽く押してあげましょう。

# ～開脚跳びにつながる力～

## 支持力＋跳躍力

### カエルの一休み

- ✓ 養われる力：支持力・跳躍力・高所感覚・バランス感覚・空間認知力
- ✓ 用意する道具：マット・跳び箱

#### あそび方

- ・両手を開いてパーにする
- ・肩幅よりも狭い間隔で手を跳び箱の奥につき、足は閉じて離れないようにする
- ・跳ぶときは膝を深く曲げ力を溜めてジャンプする
- ・ジャンプと同時に足を開き、跳び箱に跳び乗る
- ・跳び箱の前に足を出して座る
- ・座れた後は手で身体を前に押し出す



#### 声掛けのポイント

疲れたカエルさんになってみよう！  
「力をためて・・・よいしょ！」

#### 気をつけるポイント

恐怖心があるとジャンプをした瞬間に頭が下がります。  
頭が下がると頭から転倒する恐れがあるため、前を向いたジャンプを繰り返し練習しましょう。  
座れた後、手で身体を前に押し出す動作は、開脚跳び時の最後に押し出す動きの感覚を掴むことが出来ます。

教室職員様  
専用QRコード



### 開脚跳びのポイント着地

- ✓ 養われる力：支持力・跳躍力・バランス感覚・空間認知力・抑制力
- ✓ 用意する道具：マット・跳び箱・フープ

#### あそび方

- ・跳び箱とマットを隣り合わせでくっつけて設置する
- ・マット上に着地点をフープやテープ等で作成する
- ・ウシガエルを3～4回行って跳び箱まで移動する
- ・両手を開いてパーにする
- ・肩幅よりも狭い間隔で手を跳び箱の奥につき、足は閉じて離れないようにする
- ・跳ぶときは膝を深く曲げ力を溜めてジャンプする
- ・ジャンプと同時に足を開き跳び箱を跳び越す
- ・着地点に足が着けるように狙いを定めて着地する



#### 声掛けのポイント

ウシガエルさんで進んでいくと、高いお山があるよ！  
フープの中に着地しよう！

#### 気をつけるポイント

ウシガエルの姿勢を確認してから始めましょう。  
片足ずつの開脚跳びになっている子は股関節が開けていません。  
アヒル歩きを取り入れ股関節を開けるようにすると良いでしょう。  
手が離れて前のめりに倒れることがあるため、補助をする準備をしておきましょう。

教室職員様  
専用QRコード





# 運動プログラム 応用アレンジ



こどもプラス直営教室で実施している運動あそびをご紹介します。  
教室で、ご家庭で、お子さんと過ごす時間にぜひ運動遊びを取り入れてみてください。

## 指示ジャンプ

- 何人で遊ぶ?** 2人～3人以上で遊ぶことができます。
- 何を使って遊ぶ?** 用意するものは特にありません。
- どこで遊ぶ?** 教室、お家の広いスペースで遊ぶことができます。

## 養われる能力

### 指示ジャンプで、日常の力につなげる

#### ➡ 記憶力・聞く力

記憶力は、必要な情報などを覚えておくための力で、思考や学習にもつながります。

また、聞く力はコミュニケーションの基盤となる大切な力です。

聞く力には、「聞いて覚える（記憶）」「注意して聞く（注意）」「聞いて思い出す（想起）」「聞いて考える（思考操作）」「聞いてイメージする（想像）」「音をとらえる（音韻認識）」など、さまざまな要素があります。

指示ジャンプでは、これらの力をあそびの中で自然に養うことができます。

### ケガの防止につながる

#### ➡ 跳躍力・バランス力

跳躍力は、上に跳び上がる力で、主に下半身の筋肉を使って行ないます。

ジャンプ動作を繰り返すことで、お腹周りや下半身の筋肉を鍛えることができます。

また、バランス力は、動いている時や止まっている時に姿勢を保つ力であり、「立つ」「歩く」など日常生活の基本となる動きに関わっています。

これらの力は、歩行の安定や転倒の予防にもつながります。

## ⚠ 気をつけるポイント

- ジャンプの方向を間違えた際に、隣のお子さんの足を踏んでしまう可能性があります。そのため、体の大きさにあまり差がないお子さん同士で行ない、間隔をあけて安全に配慮しながら行ないましょう。

## 運動の説明

### 1 みんなで手をつなぎます。

横一列に並び、隣同士でしっかりと手をつなぎます。  
全員が同じ向きで立ち、動きやすい間隔をあけて並びましょう。



### 2 大人の指示でジャンプします。

大人が「前・後ろ・右・左」などの方向を指示し、お子さん達は全員声と動き一致させて指示されたの方向にジャンプします。  
例えば、大人が「右」と言ったら、お子さん達は手をつないだまま、全員で「右」と声に出しながら、同じタイミングで右にジャンプします。



### 【難易度を下げる】 一人で行ないましょう。

難しい場合は、手を繋がずに一人で行ない、大人の指示した方向にジャンプすることに慣れていきましょう。



### 【難易度を上げる①】 指示を増やしてみよう。

「前・後ろ」や「前・前・右」のように、大人が2つ～3つの指示を続けて出し、お子さん達は順番を覚えてジャンプしてみましょう。



### 【難易度を上げる②】 反対の動きに挑戦します。

大人が「左」と言ったら、お子さん達は「左」と言いながら右にジャンプするなど、言葉とは反対の方向に動きます。  
慣れてきたら、大人が「右・前」など複数の指示を出し、お子さん達は順番を覚えて行なってみましょう。



# 作業療法士による 発達支援コラム

毎月作業療法士による「こどもの心身発達と支援方法」をテーマにしたコラムを掲載いたします。

## お子さんの「注目してほしい行動」と関わり方

お子さんの行動の中で「どうしてこのような行動をするのだろう」と感じることはありませんか。困った行動に見えるものでも、実は「注目されたい」という思いが背景にある場合があります。今回は、そのような「注目行動」に着目し、行動の背景と関わり方についてお伝えします。

### 行動の背景にあるもの

まず、なぜ行動が起こるのかについて考えてみましょう。特性のあるお子さんは、感覚の受け取り方に偏りがあり、強く感じすぎたり、感じにくかったりすることがあります。

また、その影響により、周囲に働きかけたり、周囲からの働きかけに応じたりすることが難しい場合もあります。

そのため、その場にふさわしい行動をうまく行なえず、結果として適切ではない行動が習慣になってしまうことがあります。だからこそ、お子さんの特性や強みを理解し、望ましい行動を増やしていくことが大切です。



### 行動を理解するためのABC分析

行動は「ABC分析」という考え方で整理することができます。

A（先行事象）：どのような場面や状況だったか

B（行動）：どのような行動が見られたか

C（結果事象）：どのような結果になったか

このように行動を分けて考えることで、行動の理由が見えてきます。

### 注目行動とは

注目行動とは、周囲からの関わりが少ない時に、「その行動をすることで注目を得られる」と学習し、繰り返される行動のことです。

このような行動も、先ほどのABC分析で考えることができます。

例えば、

A：周囲との関わりが少ない状況

B：注目を集める行動をする

C：周囲から声をかけられる・関わってもらえる

このように、「行動のあとに注目される」という結果があることで、その行動は「繰り返すと注目してもらえる行動」として学習され、強化されていきます。

この時、注意することも「関わり」として受け取られるため、注意をすることで逆に注目行動が増えてしまうこともあります。

### 注目行動への対応

注目行動への対応では、「望ましくない行動には反応しない」ことが重要です。

例えば、過度に声をかけない、周囲のお子さんにも距離を取る、一時的に関わらないといった対応が挙げられます。

このように対応することで、「この行動では注目されない」ということを学習していきます。

## 良い行動を増やす関わり

一方で、望ましい行動にはしっかりと注目し、関与することが大切です。

- ・落ち着いて過ごせた時
- ・活動に参加できた時
- ・お手伝いができた時

こうした行動に対して、しっかりと褒めることで、良い行動が増えていきます。

## 運動あそびを通じた支援

柳沢運動プログラムの運動あそびも有効です。

お子さんの力に合わせて、成功しやすい活動から始め、スモールステップで取り組むことが大切です。



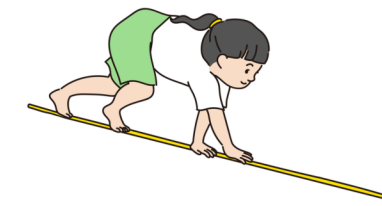
### クマ

- ① 手をパーにして床につけ、膝は伸ばしてお尻を上げ、足の平を床につける
- ② 顔を上げて前を見て、腕の力と足の平で床を蹴る力で進む



### 1本線のクマ歩き

- ① 大縄やテープで10m程の長めの1本線を引く（折り返しがあっても可）
- ② クマの体勢になり1本線の上に手と足を交互に乗せる
- ③ 1本線から手足を落とさないようにバランスを取りながら最後まで進む



### 片足クマ

- ① クマの体勢になる
- ② 片方の足を真っ直ぐ上にあげ、両手ともう片方の足で体を支える
- ③ 進む時は「手、手、足」の順に手足を動かして進む



このように段階的に取り組み、成功体験を積み重ねることで、「できた」という経験が自信につながります。

また、できた時には少し大げさなくらい褒めることも効果的です。

## 行動の理解と関わり方

お子さんの行動には必ず理由があります。

困った行動だけに目を向けるのではなく、「なぜその行動が起きているのか」を考えることが大切です。

行動の背景を理解し、適切な関わりを続けていくことで、お子さんは少しずつ安心して過ごせるようになっていきます。

今後も、作業療法士の視点から、療育に役立つ情報をわかりやすくお届けしていきます。

引き続きお読みいただけましたら幸いです。

### 参考文献

埼玉ABAセラピー研究所ホームページ 困った行動の理解と対応

<https://www.aba-saitama.com/p/9/>

# こどもを守る 安全対策だより

細菌が原因となる食中毒は、気温や湿度が高くなる夏場（6月～8月）に多く発生します。この時期は食品が傷みやすく、日頃からの予防が大切です。手洗いや食品の扱い方、保存方法など、基本的な対策を意識して取り組むことが、食中毒の予防につながります。

## 家庭でできる食中毒予防 ～細菌性食中毒予防の3原則～

### 細菌を食べ物に「つけない」

- ◆食品を扱う前・食事の前には手を洗いましょう
- ◆清潔な調理器具を使い、清潔な食器に盛り付けましょう
- ◆生で食べる食品はしっかり洗いましょう



### 食べ物に付着した細菌を「増やさない」

- ◆食品を購入した後は速やかに冷却し、適正温度で保管しましょう
- ◆食品が傷まないように調理は迅速に行いましょう
- ◆食べ切れなかった料理は冷めてから小分けして保存しましょう



### 食べ物や調理器具に付着した細菌を「やっつける」

- ◆加熱して調理する食品は中心部まで十分に加熱しましょう
- ◆定期的に調理器具の熱湯や塩素系漂白剤で消毒を行いましょう
- ◆キッチン全体を常に清潔に保ちましょう



#### 参考文献

厚生労働省「家庭での食中毒予防」

<https://www.gov-online.go.jp/article/201603/entry-7683.html>

# ぼくたち・わたしたちの アクティビティ紹介

感触あそびを通して広がる体験～さまざまな感覚に触れる取り組み～

こどもプラス上田教室では、さまざまな感覚に触れる経験を大切にしており、活動前の時間にスライムやスクイズを使った感触あそびを取り入れています。

感触あそびは、触れる・押す・混ぜるといった体験を通して、感覚の気付きや手先の使い方を育むことにも繋がります。

今回は、色水あそびやスライム作りなど、素材の変化を楽しむ活動の様子をご紹介します。

### 色水あそび

色水あそびでは、一見透明な水が、容器を振ることで色水へと変化します。

変化に気付いたお子さんからは、「色が変わった」といった声が聞かれました。

容器の数が増えていくと、重ねたり並べたりと遊び方が広がり、お子さん一人ひとりの発想で楽しむ姿が見られました。



### スライム作り

スライム作りでは、材料を混ぜながら感触の変化を体験しました。

「ねばねばしてきた」「ふわふわしてきた」など、手で触れながら変化に気付く様子が見られました。

量を調節しながら作ることで、手先の操作や見通しを持つ経験にも繋がります。

「もう少し入れたらどうなるかな」と試す姿も見られ、見通しを持ちながら試行錯誤する経験へと繋がっていました。



### もこもこアート

もこもこアートは、やわらかい素材を扱いながら、枠の中にのせるという活動です。力の入れ方を調整することや、位置を意識することなど、体の使い方に繋がる場面が見られました。

感触あそびは、触覚だけでなく、力加減や体の動かし方を感じる経験にも繋がります。また、興味のある素材を通して取り組むことで、安心して活動に参加しやすくなり、苦手さを感じていたお子さんも、少しずつ手で触れる姿が見られました。

このような体験は、さまざまな感覚を使いながら、自分なりに試したり、確かめたりする経験へと繋がります。

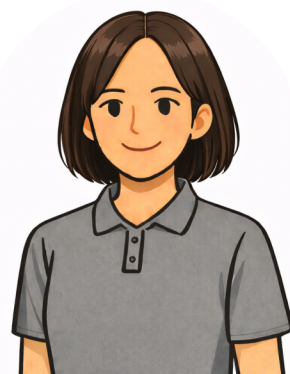
今後も、お子さん一人ひとりの興味や特性に合わせてながら、安心して取り組める活動を行なっていきます。

# 職員インタビュー

毎月、全国のこどもプラスの教室で働く職員さんをご紹介します。

## 運動遊びと療育支援こどもプラス三郷第2教室 T先生

### ダンスとの出会いから広がった、新しい世界



もともとダンス教室に勤めており、友人の紹介をきっかけに、ダンス療育を行なう施設へ転職しました。そこで初めて特性のあるお子さんと関わる中で、それまで知らなかった世界に触れ、「こんな支援があるんだ」と感じました。お子さんに合わせてダンスの工程を細分化し、スモールステップでプログラムを組み立てていくことの面白さや、活動の中でお子さん達の成長が見えることに魅力を感じ、次第に「もっと深く携わっていきたい」と思うようになりました。また、未知の分野だったからこそ、さらに学びを深めていきたいという気持ちが強くなりました。

### 経験を活かしながら、お子さんの「楽しい」を育てる

ダンス療育での経験に加え、私自身の子育ての中でも特性に関する課題を感じた経験から、お子さんへの支援は、その経験を活かせる仕事だと感じています。これまでの仕事や子育ての中で得たことを活かしながら関わられることも、この仕事を選んだ大きな理由の一つです。私はもともと体を動かすことが好きなので、楽しく運動することを通して、お子さんの「好き」や「楽しい」に繋がり、その中で成長を見られることに日々やりがいを感じています。



### 言語や社会性の課題に寄り添いながら、自信を育てる



保護者の方からは、言語面の課題や、お友達への興味、ルール理解、順番待ち、座って話を聞くことなどに関するご相談を多くいただきます。また、できないことに対する癇癪や切り替えの難しさ、運動への苦手意識など、情緒面での課題が見られることもあります。こうした姿を踏まえ、柳沢運動プログラムの中でも、お子さん同士や職員との関わりを大切にしながら支援を行なっています。「できたこと」を積み重ねることで自信に繋げ、勝ち負けにこだわり過ぎず、取り組めた過程を大切にしています。「コツコツがんばれたね」「自分からやろうと思えたね」といった声掛けを行ない、お子さん自身が達成感を感じてほしいと思っています。

### 「来てよかった」と思える時間を届けたい

教室に来てくれたお子さんに、「楽しかった」「来てよかった」と感じてもらえる時間を大切にしています。お子さんの一日の中には、さまざまな出来事があります。そのため、嫌な気持ちではなく、楽しい気持ちで帰ってもらえるよう心がけて関わっています。特に送迎時のやり取りを大切にしており、行き車内では、声のトーンからお子さんの様子の変化が分かることもあります。好きなゲームの話やしりとりなどを通して、お子さんが安心して過ごせるよう、楽しみながら関わっています。また、教室で過ごす時間の中でも、その日にやりたいことに一緒に参加し、ドッジボールやキャッチボール、鬼ごっこなどを通して、関係づくりを大切にしています。



### 支え合い、高め合うチームの力



こどもプラス三郷第2教室は、職員同士の仲が良く、熱意を持った職員が集まっている教室です。午前・午後の支援後には振り返りの時間を設け、お子さんの様子や保護者の方からの連絡事項を共有しています。また、月に一度の職員会議では、支援計画の確認や新しい運動プログラム、ヒヤリハットなどを共有し、教室全体で支援の質を高めています。それぞれが学びや研修で得たことを共有し支援に活かし、意見を出し合える風通しの良さの中で、チームとしてより良い支援を目指しています。

### お子さんの「できた」を一緒に喜べる幸せ

「できた」時のお子さんの笑顔を見ると、心から「よかったね」と感じます。逆上がりができた、跳び箱が跳べた、おもちゃの貸し借りができた、「かして」と言えたなど、さまざまな場面での成長があります。その一つひとつを一緒に喜べることに、大きなやりがいを感じています。



### 成長の積み重ねを感じた瞬間

児童発達支援の頃から関わっていたお子さんが小学生になり、以前はこだわりや癇癪が見られていた場面でも、同じ出来事を落ち着いて受け流せるようになった姿を見た時に、大きな成長を感じました。関わり始めた頃を振り返ると、その変化に改めて驚かされることもあります。今では教室の中でも頼もしい存在となっています。